

医学系研究科

メンタルヘルス多職種チームのネットワーク構築と自助グループの育成

担当学部等 医学系研究科
担当学科等 神経精神医学分野
担当者 福田 正人 教授

◎事業概要

本事業は、群馬県内でメンタルヘルスに関わる医療・福祉・保健関係者のネットワークを構築・発展させるとともに、当事者・家族の自助グループを育成することを目的とする。メンタルヘルスに関わる当事者・家族・医療福祉保健関係者は数多いが、それぞれが独自の活動を展開しており、立場・職種・施設を越えて連携できる機会は意外に乏しい。そこで、全県レベルのイベントを2種類開催して関係者が一同に会する機会を設けることで、上記の目的の実現を図っている。

①「こころのふれあいバザー展」

各種団体の活動の紹介、作品の展示、バザーを行うことで交流の場を提供する。

②「こころのふれあい研修会」

当事者、家族、ボランティア、一般市民の誰でも参加できる研修の場を提供する。

これらのイベントは群馬大学だけでなく地域、行政(群馬県健康福祉部障害政策課精神保健室と群馬県こころの健康センター)の協力体制で実施をした。

◎実施事業等

「こころのふれあいバザー展」と「こころのふれあい研修会」の二つのイベントを実施した。

①「こころのふれあいバザー展」

日時:平成26年9月6日(土)

会場:群馬県庁県民ホール

病院の在院者、福祉施設利用者の方々が手作りした品々を販売、展示を行った。当事者による体験発表、群馬大学の医学生による室内楽の演奏をステージで発表した。また、こころの健康相談として当事者・家族による個別相談を設けた。このような催しを通じて、精神疾患や精神医療やメンタルヘルスについて来場者の理解を促す機会となった。

[バザー参加病院]14病院

[展示参加病院]11病院

[来場者]約1,000人

②「こころのふれあい研修会」

日時:平成27年2月21日(土)

会場:群馬県庁昭和庁舎35会議室

テーマを「ぐんまの若者支援」として、若者に対しての精神科サービスの普及、支援に対しての講演を聞きそれについての議論し、理解を深めた。

[参加人数]約70名

◎期待される成果

本事業の成果として3つ挙げられる。

第一に「こころのふれあいバザー展」と「こころのふれあい研修会」を開催したことで、メンタルヘルスについて参加者に広く理解してもらえたことである。こころの病は自分だけではないということを当事者に伝えるができ、日常生活能力の低下はあっても生活の質の向上が可能であると市民の理解を高め支援について考える機会を提供できたと期待できる。

第二にイベント開催にむけて準備過程を通してメンタルヘルスにかかわる多職種が相互理解を深めて、連携の強化を図れたことである。準備段階で保健医療福祉関係者が顔見知りとなり、新たな交流ができた。これにより群馬県内でメンタルヘルスに関わる多職種のネットワークができてきている。

第三にこの活動に群馬大学が積極的に関わることができたことである。準備の会議を群馬大学で開いたり、群馬大学医学生のサークルによる演奏をしたり地域貢献を実感できる体験となった。